

分野別講座「学力の基礎・読み書き計算入門」参加者 19名

まとめ 羽根 正司

●提案 鈴木 基久

学年の漢字を網羅した「リズム漢字」と同じ発想で作られた、カタカナを網羅した視写プリントは、鈴木氏のアイデアが詰まった一品だと感じた。また、「リズム漢字」の要

領で47都道府県をその特長と一緒に音読しながら覚えるという実践も面白いと思った。

●提案 図書 啓展

学力研の根幹である「読み書き計算」を実践が丁寧な報告されていた。「読み書き」というと国語をイメージしやすいが、他教科でも大事にするのが学力研流。その一例として取り上げられた「かっぱせ都道府県」は全員で楽しく唱えることができた。

また、「さかのぼり」についても例を挙げて説明された。全校全教師が同じ考えで実践することは

分野別講座「授業づくりABC」47名参加

子どもの発言を深める発問・指示・板書 まとめ 図書 啓展

●提案 深澤 英雄

授業づくりのA

まずは学習規律を整えることが大切だ。学習の約束を習得させ、①伝わりやすい話し方をする・発声・大小・具体的数字・一時に一事

②聞きたくなる語り方

・聞き姿勢の確認・間を作る・全体に向かつて注意してから課題のある子へ

③「ありがとう」のひと声添える

・感謝の気持ちを伝える。④毅然とした態度を示す

・小さな私語のうちにやめさせ芽を摘む。

⑤自分の授業風景を一時間録画し見直す。公開授業をして意見をもらう。

授業づくりのB

●音読

「たんぽぽのちえ」の教材を使って音読の模擬授業。「連れ読み」や「はさみ読み」など様々な練習の仕方を体験的に学ぶ。評価が大切。

●ノート指導と板書
ノート指導で

①学力を上げることができる
②学習規律が整う

③教師の振り返りになる

④学級づくり学年づくりにつながる

⑤子どもの心を動かす事ができる

授業づくりのC

歴史の模擬授業を通じて授業の組み立て方を学ぶ。「長篠合戦図屏風」を見て、まず織田・徳川・豊臣軍と武田軍それぞれを見て気づいたことを出す。次に違いを見つめる。さらにどちらが勝ったか、なぜかを班で検討し発表。共通したのは織田連合軍の方が人数が多い、鉄砲を持っていることだった。

ここで織田連合軍が鉄砲代として織田軍が九十億円、武田軍が十五億円持っているとお金の差を深沢氏から示されて一同驚く。

長篠の戦いでは織田・豊臣・徳川が登場し、「戦国の世はどのよう統一されたのだろう。」とまとめて学習につなげる、と見事な構成の授業であった。深い教材研究や検討するための絵は原画を班の数分用意する周到な準備などが授業での子どもの力を引き出すと痛感。